福島 200も決勝逃す

女子200㍍準決勝を終え、トラックを後にする福島千里＝1日、韓国・大邱（時事）

世界陸上

世界陸上は1日、韓国・大邱で行われ、女子200㍍で日本女子初の準決勝進出をした福島千里（北海道ハイテクAC＝帯南商高出）は23秒52で1組8着に終わった。福島は個人種目でのファイナリストは逃したが、最終日の4日の400㍍リレーで決勝進出を狙う。

【女子】◇200㍍準決勝▽1組＝⑧福島千里（北海道ハイテクAC＝帯南商高出）23秒52・落選

「まだ戦えない」

23秒52で組8着　後半の加速課題に

女子200㍍準決勝1組。福島は得意のスタートに精神を集中した。号砲とともに低い姿勢で飛び出し、定評のある、カーブを走る技術で加速。100㍍との2冠を狙うジーターら強豪に食い下がった。

しかし、直線に入ると力の差が出た。引き離されて8着でゴール。100㍍も準決勝で8着。福島は「今はこれが精いっぱい。このレベルではまだ戦えない。（前半の）貯金がないと全く駄目」と淡々と振り返った。

スタートから30㍍のスピードは世界一流レベルとされる。このレースのリアクションタイムは8人中1位。それに比べ、30㍍以降どう加速するかが課題だ。欧米選手より筋力で劣るため、地面を蹴るときに受け取る反発力が不足し、スピードに乗れない。ロンドン五輪へ向けての課題は改めて明確になった。

国内では「勝って当たり前」のレースがほとんど。昨年はアジア大会で短距離2冠。一層の飛躍を期して臨んだ世界の大舞台では、収穫もあったが、厳しい現実も肌で感じた。「何回も何回も落ちて、いつかそこ（決勝）へ行けたらいいな」。世界での借りは世界で返すしかない。

（大邱時事）

かちまいスポーツ

クラス初優勝を飾った③大津壮稔

大津（ランデヴー）クラス初制覇

4輪クラブマンカップ　ザウルスジュニア　佐久間（あんたたち！A・Jグループ SJr）も

2輪ロードレース

【更別】2輪モータースポーツの十勝ロードレース選手権&オープンロードレース第3戦、4輪の北海道クラブマンカップ第3戦と十勝サーキットトライアル第3戦が8月28日、TIS（十勝スピードウェイ）で開かれた。ロードレースでは大津壮稔（幕別町、ランデヴー）がクラス初制覇、クラブマンカップのザウルスジュニアでは佐久間薫（本別町、あんたたち！A・JグループSJr）が念願の初優勝を飾るなど十勝のライダー・ドライバーが活躍した。

ロードレースのストリート1000・エンジョイスポーツクラスでは、大津が1000ccクラスの大型バイクを相手に、旧型の600ccマシンで総合4位、クラス初優勝を飾った。大津は帯広市内でバイクショップ「ランデヴー」を経営、今回は大津を含めチームランデヴーから6選手（同レース参戦は5選手）の十勝ライダーが大会を盛り上げた。

活躍したチームランデヴー（左から大津壮稔、92番・国沢透と家族、34番・高井仁志、19番・砂澤聖太郎、82番・山口智明、104番・宮下豊ら）

クラブマンカップでは、予選から佐久間と今野訓昌（帯広出身、十勝レーシングスクールJr）が接戦を演じて今野がポールポジションを獲得、佐久間は2番手。決勝でも2台がトップを入れ替えながらテール・トゥ・ノーズの激戦を展開、最終ラップ（12周回目）でトップに立った佐久間が今野の仕掛けを排して初優勝を遂げた。佐久間は会場に駆けつけた家族全員に祝福されて会心の笑みを見せた。

ザウルスジュニア初制覇を喜ぶ佐久間薫

ライバルとの激戦を制した佐久間薫（前方）

同時開催の十勝サーキットトライアル戦では、NS−1クラスの加藤由記（帯広市、アッシュランドヴィッツED）が優勝した。

帯広工業・広地野団　マテック2年ぶり優勝

岸田が最高殊勲選手

軟式野球の第42回帯広工業団地大会（帯広工業団地協同組合主催）が8月28日、伏古別公園球場、帯広の森平和球場で行われた。決勝はマテックが5−0で東北海道いすゞ自動車に勝ち、2年ぶりに優勝した。最高殊勲選手賞は岸田匡由（マテック）が受賞した。大会には7チームが参加、トーナメントで争った。

▽1回戦

マテック 5−1 帯鷹典雅
山田機械工業 19−0 ヒッターズ
東北海道いすゞ自動車 6−0 帯広電子
▽準決勝
マテック 10−0 山田機械工業
東北海道いすゞ自動車 5−0 パナソニック電工帯広
◇決勝
マテック 1000031 0000000 05

東北海道いすゞ自動車
◇個人賞▽最高殊勲選手賞＝岸田匡由（マテック）▽殊勲選手賞＝大井瞭（マテック）▽敢闘賞＝小町充（東北海道いすゞ自動車）▽ホームラン賞＝大井瞭（マテック）松井拓也（同）

2年ぶり優勝のマテック

準優勝の東北海道いすゞ自動車

17日から出身校別野球

締め切り7日　出場チーム募集

管内の同一高校OBチームが軟式野球で頂点を争う第3回出身高校別社会人大会（帯広軟式野球連盟、帯広野球審判協会、十勝毎日新聞社主催）が17日から3日間、帯広市伏古別公園野球場で開かれる。主催者では出場チームを募集している。7日締め切り。3連覇を目指す帯南商などの出場が見込まれている。

出場チームは初回8チーム、昨年11チームと年々増え、ベンチからあふれるほど選手が集まるチームも。そのため今大会から、選手登録を「1大会30人」から「1試合ごとに30人」へと変更した。大会はトーナメントで行われる。

出場資格は、管内各市町村の野球連盟にすでに登録しているか、大会までに新たに登録した選手。チームは管内単一校が原則だが、困難な場合は昨年の管外校出身者らによる混成チームのような編成も認めている。

出場希望者は、各校ごとの担当者に連絡するとよい。担当者の連絡先などは十勝毎日新聞社事業局（0155・22・7555）まで。

レスリング　全国制覇を報告

田所（豊成小）が八鍬教育長表敬

7月29〜31日新潟県で行われた全国少年少女レスリング選手権で2連覇を果たした田所和士（帯北レスリングクラブ・豊成小4年）が1日、帯広市役所を訪れ、八鍬祐子教育長に結果報告した。

田所は優勝メダルやトロフィーを携え、同校の久永恵子校長とともに訪問。「先生に教えてもらった技が決まると面白い。夢は格闘技選手。大学を卒業するまでにオリンピックに出たい」と将来の目標を語った。

八鍬教育長は「バイタリティーを秘めている。目が輝いていて、自信を持って取り組んでおり、自分自身に勝っていると思う」と全国優勝の快挙をたたえた。

田所は小学生の部4年生39㌔級に出場し、初戦の2回戦と準決勝でフォール勝ち。決勝は11−0のテクニカルフォール勝ちを収めた。

（高橋宏幸）

八鍬祐子教育長（左）に全国大会の結果を報告した田所和士（中央）。右は久永恵子校長

「いい経験になった」

全国出場の帯緑園弓道部、鎌田（帯西陵）

8月の全国中学生弓道大会に出場の帯緑園弓道部と全国中学校卓球大会に出場した鎌田那美（帯西陵2年）が1日、帯広市役所を訪れ、八鍬祐子教育長に結果を報告した。

帯緑園弓道部は男子団体の高簿征史、苅谷凌介（以上3年）伊藤和顕、毛利俊太（以上2年）、女子個人の岸本桃花（3年）の5選手が、林忍校長、菊地慶晃顧問とともに、鎌田は村井正志校長と小竹和孝顧問とともに訪問した。

初出場の鎌田は1、2回戦で勝利を収め3回戦進出。「みんなレベルがすごくて自分と違うところがあった。また来年頑張りたい」と意欲を示した。

帯緑園の男子は団体戦予選17位。決勝トーナメントに進出できるベスト16にあと一歩及ばなかった。それでも高簿は「前日の練習ではうまく引けなかったが、本番でいつも通りできたので良かった」と話し、苅谷も「全国で負けてしまったけれどとてもいい経験になった」と振り返った。

女子個人の岸本も10位で決勝トーナメント進出にわずかに届かなかったが、「全国のレベルが高くて驚いた。結果的に決勝トーナメントに行けなかったが、自分の目標は達成できた」と感想を述べた。

八鍬教育長は「みんなあと一歩のところだったが、努力は無駄にならない。全国に行ったことを誇りにさらに頑張ってほしい。本当にお疲れさまでした」とねぎらった。

（高橋宏幸）

八鍬祐子教育長（後列中央）に全国大会の結果を報告した中学生選手（前列）。苅谷、高簿、加藤、岸本、伊藤、毛利（左から）

球友杯野球

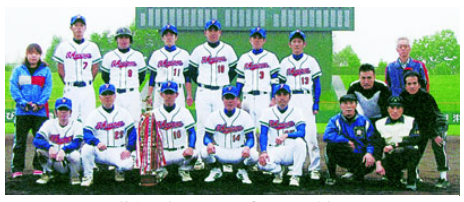
テツワンクラブV　FAウイングスに5−2

最終日は1日、帯広の森野球場で決勝を行い、テツワンクラブが5−2でFAウイングスを破り8度目の優勝を果たした。テツワンクラブは初回に上野和の3点三塁打などで試合を優位に進めると、榎本も7球で六回を完投。勝利に貢献した。12チームが出場。4月から予選リーグを行ってきた。

◇決勝
テツワンクラブ 4000010 0000020 25
FAウイングス

（六回時間切れ）
【テ】榎本−上野拓
【F】川島・椿
▽三塁打＝上野和、永原（テ）川島（F）
▽二塁打＝内藤（テ）伊藤（F）

優勝のテツワンクラブ



準優勝のFAウイングス

クラブ対抗野球

決勝8日に延期

2日に帯広の森平和球場で予定していたワーク・ボーイズ一年中野球の決勝は、降雨のため中止。8日に延期した。

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410　Eメール▶sports@kachimai.co.jp　ファクス▶0155-25-2700